

令和7年8月19日

総務文教委員会

阿久根市議会

1 会議名 総務文教委員会

2 日時

(1) 期日 令和7年8月19日(火)

(2) 開会 午前10時

(3) 散会 午前11時24分

3 場所 第2委員会室

4 出席委員

川 原 慎 一 委員長

竹之内 和 満 副委員長

大 田 基 次 委員

大 野 雅 子 委員

木 下 孝 行 委員

牟 田 学 委員

5 欠席委員

白 石 純 一 委員

6 職務のため出席した議会事務局職員

上 脇 重 樹 次長兼議事係長

7 説明員

富 永 賢 吾 企画推進課長

橋 口 武 史 企画推進課地域振興係長

齊 藤 詩 織 企画推進課会計年度任用職員(地域おこし協力隊)

8 会議に付した事件

所管事務調査について

9 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

川原慎一委員長

ただいまから、総務文教委員会を開会します。

本日は、所管事務調査事項としている移住定住促進策について、所管課で当該施策に従事されている会計年度任用職員である地域おこし協力隊に出席していただき、取組の現状説明を受け、質疑を行います。

所管課の企画推進課は入室してください。

〔企画推進課入室〕

◎ 所管事務調査について

○ 移住定住促進策について

川原慎一委員長

所管事務調査事項のうち移住定住促進策を議題とします。

所管課である企画推進課で移住定住促進を担当されている地域おこし協力隊の齊藤さんに御出席いただきました。

齊藤さんの取組状況について説明を求めます。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

阿久根市地域おこし協力隊の齊藤です。

私は、令和6年の5月から空き家や移住定住担当として採用されまして、現在活動しております。

主な活動として、移住定住関係におきましては、都市部で行われる移住定住イベントに参加し、移住者から見た阿久根の魅力を発信しております。また、移住定住のパンフレットや市独自で開催したイベントのチラシ作成を行いました。そのほか、移住者からの相談を受け、必要に応じてアテンドも行っております。

次に、空き家関係ですが、空き家や、空き家の処分や利活用全般の相談を受けておりまして、処分に関しては、空き家バンクや不動産事業者の紹介を行うなど、市の担当者と情報を共有しながら進めております。空き家の利活用に関しましては、不動産事業者や建築業者の紹介も行っており、まちの灯台阿久根の代表である石川氏に助言をいただきながら活動しております。

令和6年度は、移住して間もないタイミングだったため、各区長を訪問し、地域における空き家の現状や実態を把握するとともに、空き家バンクの市の政策を紹介してきました。

今年度は、昨年度の活動を継続しつつ、商工観光課が行うアクネファン創出事業に携わっておりまして、阿久根に住むことの魅力を伝えていきたいと考えています。

以上、私の主な活動になりますが、空き家や移住定住に関する具体的な相談内容はお答え致しかねますので御了承ください。

川原慎一委員長

ありがとうございます。

取組状況について説明をいただきました。

ただいまの説明に対する質疑を行います。

質疑ありませんか。

竹之内和満委員

空き家バンクと先ほど言われましたけど、どのぐらい空き家バンクに登録されているんですかね。

〔齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）「ありがとうございます」と呼ぶ〕

〔発言する者あり〕

川原慎一委員長

暫時休憩入ります。

（休憩 午前10時4分～午前10時5分）

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

空き家バンクの登録利用状況は、令和6年度の登録件数は18件となっております。

竹之内和満委員

その18件という数字はどんどん増えている方向ですか。どうなんですかね。

富永企画推進課長

空き家バンクの登録状況につきましては、件数としては増えてきているという状況になってございます。

成約状況につきましては、平成30年から1件2件というふうな形だったんですけれども、令和6年度については7件成約という形になっている状態でございます。

木下孝行委員

確認したいんですけど、今の18件っていうのは、これは登録件数が18件あったということですか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

そのとおりでございます。

木下孝行委員

登録件数18件。そのうちに実際に空き家として買ってもらえたというか、手続をしてもらえたのは何件ぐらいあるんですか。

富永企画推進課長

先ほど、成約状況を申し上げたところだったんですけれども、令和7年度でいくと7件成約という形になってございます。もちろん、売買以外にも賃貸もあったりはするので、ちょっと内訳までは今申し上げられないんですけど、7件の取引がありましたという形で御認識いただければと思います。

木下孝行委員

令和7年度に7件の契約があったということですか。

富永企画推進課長

すいません。今、令和6年度の状況が7件であったということで申し上げましたが、6年度です。

〔木下孝行委員「7件の契約があったと」と呼ぶ〕

7件の成約がございました。

通し番号で、今、管理してるんですけど、物件数は。今、34が通しなってますので、履歴的には34件近くの登録があると。ただ、物件として、今、提示ができてるのは令和6年度時点で18件という形で認識いただければと思います。

大野雅子委員

移住のほうをちょっと教えてください。

都市部に行って、いろんなイベントに参加してきたということなんですか。それは何回ぐらい行かれたんですか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

市単独で行ったイベントが2件で、県主催のイベントが1件で計3件、参加させていただきました。

内容といたしましては、1件が市単独イベントの東京で、墨田区のほうと台東区のほうで参加させていただいたものと、もう1件、市単独でのイベントは、ふるさと回帰支援センターのほうで移住相談会を行わせていただきました。

大野雅子委員

そこから来てくださった方とお話をいろいろしたりとかするイベントだと思うんですけども、そこで興味を持って、そこに立ち寄ってくださった方は、このイベントがそれぞれで違うんですけど、どれぐらいのものなんですかね。教えてください。参加して下さる方たちが寄ってくださったっていうか、阿久根の自分たちのブースにですね。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

参加していただいた方は、もともと阿久根を知ってくださってる方が多かったんですけども、市単独で開催したものに関しては、阿久根を知ってる方が多くて、年代としましては20代から30代、たまに40代がいるみたいな形が多かったです。

県主催のほうは、余り阿久根のことを知らなくて、ただ鹿児島の方に移住してみたいといった40代から60代の方が多かったイメージがあります。

富永企画推進課長

人数に関しましては、直近でいくと6月の市の単独イベントを東京でさせていただいて、そこで10名の方が来られたという形になります。

6年度につきましては、イベントが3回、先ほど齊藤隊員のほうから出席という形でお話があったと思うんですけど、それぞれ市の単独イベント、東京だったものについては合計で52人、6年度の12月に行った単独イベント、東京になりますが、こちら3人、令和7年の1月、県主催のイベントで東京で行ったものについては5人という形になってございます。

大野雅子委員

一生懸命アピールして下さって本当にありがたいと思います。

そういう方の中から、またさらに、このアクネファンイベントに参加したいとか、という方も出てきてらっしゃるんでしょうか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

参加されている中で、令和7年度のほうで、市単独で行ったイベントのほうに参加していただいた方で1人予約が入っておりました。

大野雅子委員

とても丁寧な流れになってて、本当にアクネファンイベントがすごく私、すてきだなと

思ってた、来てくださったら阿久根のよさっていうか、楽しさがすごく分かる取組になってると思いますので、まずそのいろんな会に来てくださる人を増やすことっていうのが大事なのかなあと、いろんなまちとの違いをですね。

これからもどんどん続けていって、いろんな取組でこう、どこもどこの市町村も県もやってると思うんですけども、違いをアピールできるように、また新たな方法とか何か考えていらっしゃると思いますか。アピールの方法っていうか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

まず、私にとって阿久根市という場所がすごく人生を変えていただいた場所でもあるっていうところもあって、そういった自分の経験を基に、いろんな方に阿久根を知っていただきたいなというふうには感じております。

着任後1年半たった現在も、阿久根に来たときからの思いは変わらず、ずっと阿久根が好きという気持ちもありまして、やはり皆様の支援のもとに成長を実感していたり、町からの自分という人間一人を見てくださる感覚だったり、そういったものが阿久根市はより強いなと感じていて、これから来ていただく方にもそういったものを感じてもらえるようなことを、取組をできたらなと思っております。

大野雅子委員

これからも本当にいろんなアピールの方法、ほかの市町村がどんなことをやってるかもまた参考にしながら、取組を進めていってくださればありがたいなあと思っています。

空き家バンクのほうをちょっと、空き家のほうをちょっとお聞きしたいと思います。

令和6年、今で登録が18で、成約が7件あったというのは、すごく、今までとしたりすごい数だなと私は感じているんですね。そこが7件増えた理由っていうのはどういうことだと思われますか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

私の活動で昨年度、令和6年度は、主に区長回りをさせていただいたとあるんですけども、やはり区長さん、各区長77区長さん回することで、地域の方の課題感であったり、実際に区長さんが持っている人脈だったりっていうところからの相談もやはり多くなったようには感じておりまして、なので、地域の方とのより密着した活動が行われたことが、件数が増えたのかなと感じております。

大野雅子委員

私もそのとおりだと思います。

地域それぞれが本当に来てほしいんだけど、空き家はきれいなのはあるけどなかなか、仏壇があるからできないとか、盆と正月だけ帰ってくるから手放せないんだとか言いながら、だんだん古くなっていってどうしようとかなくなってるところもたくさんあると思うんですね。そういう問題も本当に地域に行かないと、その場に行かないと分からないということはとてもたくさんありますので、どんどん地域には回って行って、もう1回行ったからじゃなくて、回って行ってくださることを希望します。

木下孝行委員

イベントに参加が7名であったり5名であったり、各会によって人数が違うんだと思うけど、参加をする方が、どんなものっていうか、空き家っていうか、そのまち自体も含めて、どういう要望がとか、要望っていうか阿久根市に対してどういうものがあるのかとか、希望があったりするわけじゃないですか。子育て対策はどの程度阿久根はやってるんです

かとか、仕事の雇用状況はどうなんですかとか、そういうのは大体把握してると思うんですけど、どういうのが1番多いですか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

もちろん子育てであつたりとか、お仕事とかの御相談がすごく多いんですけれども、最近その、阿久根市で空き家を利活用した新しく事業を始める方であつたりとか、そういった方がSNSだつたりとかで見える化してきているので、そのため、ちょっと新しく事業を始めてみたい、もともと阿久根に住んでいた方で東京に出てしまった方ですけれども、もう一度阿久根に戻ってきて何か始めたいといった方からの相談が多かったようにも感じております。

木下孝行委員

起業したい方が結構多かったということなんですけど、事前にその人たちは阿久根の情報を調べてから参加してるっていう方が多いですか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

どちらかというと、このイベントを基に情報を知りたいというような方で、もう一度阿久根とつながるために参加されてるような方であつたり、よりつながりを深めて情報を知りたいという方が多い印象でした。

木下孝行委員

そういう中で、齊藤さんが今後どういうことを、また阿久根が条件としてそろえていったほうがいいかなあとか、自分もこういうことをまた情報として流していきたいなあというようなことを考えていたら、それをちょっと教えてもらえますか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

やはり、実際に来ていただいて、もし開業されたとしても、もしかしたらその開業がうまくいくかどうかというところは不安がたくさんあると思うんですけれども、その不安のサポートであつたり、住居関係など、やらなければ、お仕事を開業するに当たって以外のことでのサポートであつたりとか、協力隊ならではのできるサポートっていうものがあると思うので、そういうところを重点に置いて、ぜひ、このまちに来て、帰ってきていただきたいというふうに感じております。

木下孝行委員

最初、齊藤さんとしては、今後その参加者のできるだけサポートができるような情報も収集しながら対応していきたいという、そういう考えでおられるということで、齊藤さんならではの発想とそういうもので、何か今後取り組んで、所管課の富永課長初め、所管課とも十分そこら辺は話をしながら、できるだけ移住者が増えるような、空き家の対策が進むような、そういう形で、とりあえず頑張ってもらいたいと思っております。

竹之内和満委員

仕事に関してなんですが、やっぱり移住者、やっぱり仕事がないと。なかなか起業するんだつたらまだいいとして、それ以外の方、例えば仕事のあっせんとか、そういうのをするんでしょうか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

昨年度までの協力隊が、移住、ちょっとお仕事、阿久根市での事業者さんに取り合つて、お仕事を何か、就職者募集みたいな形のものも行っていたんですけれども、今年度はちょっとそちらの引継ぎが行われておらず、まだできていない状況でした。

竹之内和満委員

去年、特定地域づくり事業協同組合ができたんですけど、それを利用するというのはしてるんでしょうかね。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

地域おこし協力隊であったり、特定地域づくり事業協同組合というものの御紹介などはさせていただいてる場合もございます。

竹之内和満委員

その事業協同組合に、実際に登録されてる方はいらっしゃる、移住者でいらっしゃるということですかね。どうなんですかね。

富永企画推進課長

今、特定地域づくり事業協同組合ですね、昨年度から開始されたところもございまして、実際に雇用いただいている方が2名という形で伺ってます。

ただちょっと、移住定住っていうか、出水から通われてるっていうふうな形で伺っているところもございまして、もちろん、地域おこし協力隊の方が3年間の任期を終えて、そこに入られるっていう可能性もあると思います。

ただ、今のところまだ任期を終えた方はいらっしゃらないかなというところで、直近、任期を終えられた方も起業されるという形で伺ってはいますので、特地のほうが今後ですね、いろんな企業さんが参加されていけば、さらにその仕事のあっせん機能が強化されていくんじゃないのかなというふうには考えているところでございます。

牟田学委員

折口なんですよ、私は。折口で、実際は、私の同級生の家を借りて、改修をして、今コーヒーショップかな、やっておられると思うんですけど。

実際、そこをずっと、私もちっちゃい頃から知ってるわけで、大丈夫なのかなあという、自分で起業して、ねえ、例えば、ずっと昔からおる私にとっては、ここ大丈夫なのかなという思いはあるんです。

だから、起業されて、そういった何らかのこのサポートはやっていってるんですか、起業された方に対して。その人も多分、地域おこし協力隊だったと思うんですよ。起業されて、そのあとのサポートっちゃうか、そういうのはどうなってるんですか。

橋口企画推進課地域振興係長

起業に当たりまして、継続したサポートというのは、正直、行っていないというところではあるんですけども、その起業する際に起業支援補助金という形っていうところでやっております。

〔牟田学委員「それは分かる。起業されたあとはしてないの」と呼ぶ〕

特に。

〔牟田学委員「はい、いいです」と呼ぶ〕

〔木下孝行委員「ちょっと休憩入れてもらえるかな」と呼ぶ〕

川原慎一委員長

暫時休憩あります。

（休憩 午前10時23分～午前10時30分）

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

ほかに御質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、私のほうから質問させていただいて。

竹之内和満副委員長

それでは、暫時委員長の職務を行います。

川原慎一委員の発言を許します。

川原慎一委員

イベントへ参加していらっしゃいますが、それぞれ来られた方々、阿久根の話を聞きに来られた方の、齊藤さん御自身のイベントの手応えというものはどうでしたか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

手応えのほうですと、やはり、今までアクネファン創出事業のほうでも参加された方、昨年度までの方で参加された方もいたり、実際に阿久根に住む人に会いたいという動機で、もうそれも自分でもあったり、石川氏であったりでもあるんですけども、会いたいという動機で参加される方もいたり、やはり、その後、イベント後にも阿久根にも実際に足を運んでくださって、自分がちょっと市内を案内したりとかっていうこともあったりして、イベントすることによって、現地に、阿久根に足を運べない方でも、そういった段階でも阿久根に興味を持ってもらったり、関心を持ってもらうきっかけになるのだという実感を得て、すごくやってよかったなっていうような、これからも続けていって、関係人口といったものを増やしていくべきだなというふうに感じております。

川原慎一委員

イベントの参加、今、齊藤さんと石川社長がやってたりっていうことのようにですが、例えば、これに消滅可能性自治体ということであれば、30代の女性が増えることによって、そこを脱却するच्छゅう可能性が出てくるということもございます。

例えば、齊藤さんのように、阿久根のすばらしさというものを実感されて、今、協力隊になっていらっしゃる、例えば、そういった方ですね、30代の女性であったり、阿久根のよさを分かっている方をイベントに参加していただいてっていうPR方法というようなお考えはないですか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

令和7年度のイベント、東京で開催した市独自のイベントに関してなんですけれども、やはり、最近の移住者であったり、自分たちの周りの移住者、協力隊になった方を見ると、30代から40代の女性が多かったり、あと最近黒之浜漁港のほうで、きりん商店さん、きりんビルさんという方が霧島から移住してきたんですけれども、その方の女性のほうが最近お子さんが生まれまして、そういった方のお話をイベントに、実際にオンラインでつないで、その方たちの話が聞けますよといったようなイベントを開催しておりまして、それがあったからかは分からないんですけど、女性のそのイベントの参加者は多かったようにも感じていて、なので、今後もそういったアプローチのかけ方などで女性移住者を増やしていけないかなというふうには感じております。

川原慎一委員

今の質問につながることもなんですが、20代から30代女性が阿久根に移住定住してくれる

きっかけとかポイントっていうものは、齊藤さん御自身はどうお考えですか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

過去の協力隊隊員とかもですけども、女性の起業家っていうのが増えている状況で、女性が住みやすいまちっていうのが見えているのかなという、最近の阿久根には感じられるのかなというふうに思っているんで、ほかのまちとかもですけども、女性の協力隊が活動しているところだと少し移住者が増えやすかったりとかっていうような印象もあるので、今後そういった方々のサポートもしながら、女性の移住者というものを増やしていけたらなというふうにも感じております。

川原慎一委員

先ほど、齊藤さんの話の中で、自分の経験を基に阿久根に移住しっていうことをおっしゃられましたが、齊藤さんの経験を基に、阿久根に住みたいと思ったことは何なんですかね。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

令和5年度になるんですけども、阿久根市で青果市場跡地活用事業の検討で、専修大学の学生と専修大学の教授の上平教授と学生を呼んで一緒にフィールドワークをする中の一人として自分も活動させていただいて、そういったデザイン分野の教授でもあったんですけども、その地域デザインなどを通して、阿久根市に来て、そのときに感じた地域の面白さであったりとか、阿久根の自然な方々との触れ合いだったりとかっていうところが主な理由にはなっております。

川原慎一委員

阿久根の方って割とあくの強い方多いと思うんですけど、やっぱり非常によかったですか、その地域の方々との話って。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

これは本当、阿久根だからなのか分からないんですけども、余り見返りのない優しさをくれる方がすごく多くて、まだ何かしたわけでもないにもかかわらず、よくしてくださったりっていうこともあったり、ただ何かお返ししようとしても、何でそんなことをするんだみたいな逆に怒られることもあって、どちらかという和阿久根で楽しんでいる姿を見せることが、今阿久根でやるべきことでもあるのかなみたいなことも思いながら、そういう人柄のよさに惚れている部分はあります。

川原慎一委員

私も結構、仕事柄東京とかに行くことが多いんですけど、そのときに阿久根の話をしたときに、阿久根に住んでる自分としては、正直、これをよさと思わないんですけど、いろいろ話をすると、そんないいところがあるじゃないかっていうことを、よく東京、都会の方々おっしゃられるんですけど、齊藤さんのお考えになったその阿久根の市民、阿久根市民が気づかない、阿久根のよさっていうものが具体的にあれば教えてください。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

港町っていうこともあって、言葉は少し強く感じてしまう部分もあったり、どうしても言葉、言語がちょっと違うように感じてしまう部分もあるんですけども、伝えようとしてくれる努力であったり、余り自分の元々住んでいた神奈川であったり、長野であったりでは余り感じることでできなかった、人としての接してくれやすさ、ちょっとうまく言葉にできない部分があるんですけど、阿久根の方、直感的に違うっていう印象でしかない部分もあるんですけど、何か一人の人間をちゃんと見てくれているような感じがします。

川原慎一委員

結構、そういう若い人たちが、煩わしく感じる場所があると思うんだけど、齊藤さんって、いいね。いや、例えば、今、人とのってということだったんですけど、例えば、景色であったりだとか、そういったもので、何かあれば、阿久根のPRでも、都会に阿久根に住んでらっしゃらない方に対してPRしたいものっていうのはありますか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

今回のアクネファン創出事業、今年度の告知動画を作らせていただいたんですけれども、その告知動画を作る際、ちょっと話が少しずれてしまうんですけれども、告知動画を作る際に、阿久根の景色であったり、仕事風景であったりとかっていうのが特徴的ではあると思うので、そういった動画も撮りたいと考えていたんですけれども、実際にちょっとまだ見られたか分からないんですけれども、今年度自分の仲よくなった方をターゲットに、ターゲットといいますか、の方をもとに、それぞれに阿久根と一言言っていたいて、どんな人が阿久根にいるのかっていうのを見てもらいながら、自分の知っている阿久根の素敵な人をいろんな方に見てもらいたい、その阿久根っていう一言を言っていただく言葉の中にも、それぞれの思っているものが伝わってると思うので、そういったまとめた動画を撮りまして、それを撮った理由も、やはり、それぞれの人のよさであったり、急に動画撮らせてくださって言うても快く引き受けてくださったり、そういうまちであることが、多分動画になったことで伝わってると思っていて、そこがすごくいいまちなのかなあ、いい人たちなのかなっていうふうに思うところでもあります。

川原慎一委員

動画というお話ありましたが、例えば、インスタグラマーであったり、T i k T o k e r だったりっていうこと、こういった方々を活用していこうというPR方法というものはお考えにならない。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

もし可能であれば、そういった有名なインスタグラマーなど来ていただけたら阿久根のPRになるかなというふうには考えるんですけれども、ただ、今の阿久根の現状でいくと、それだけ多くの方が来ても受入れ体制がなかったり、宿の手配だったり、飲食店も多分パンクしてしまったり、なのでゆっくりゆっくり人を集めていくことの重要性も多分あると感じていて、なので、阿久根市民1人1人がインスタグラマーといいますか、SNS発信していく人になっていくことで、ゆっくりではあると思うんですけれども、一気に人が来過ぎてパンクして阿久根というまちが一気に駄目になっていくよりは、いい傾向なのかなっていうふうにも、これからの阿久根のことを思うと、あまり多くの人を呼び寄せるとよりは、少しずつ呼んでいくこともいいのかなと考えております。

川原慎一委員

最後、これ、企画推進課に。

地域おこし協力隊を終えて定住された方の数っていうのは、今どのぐらいですか。

富永企画推進課長

平成27年度から阿久根市のほうで地域おこし協力隊の方受け入れてございまして、15名卒業生がいらっしゃいます。

そのうち今8名の方が定住という形で、8名の方が定住されております。起業されてるっていう形で、定住というところとなっております。

竹之内和満副委員長

川原委員の質疑が終わりましたので、委員長の職務を川原委員長と交代いたします。

川原慎一委員長

それでは。

〔大野雅子委員「1点追加で、もう少しいいですか」と呼ぶ〕

大野雅子委員

さっきちょっと、齊藤さんにお伺いします。

きっかけに女性が住みやすいまちって言うてくださったんです、があるからじゃないかなって言われたんですけど、そこら辺はどういうところから女性が住みやすいまちと感じてくださいましたか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

もちろん協力隊卒業者、先ほども申し上げたとおり、協力隊卒業した方たちの開業状況であつたりもあると思うんですけども、子育て面でも、魅力的な保育園が、めぐみ園はじめとしてあつたり、阿久根駅の中にも子供と一緒にしやすい空間であつたり、実際に鹿児島市内の自分の友人が阿久根に遊びに、子育てしている女性の方なんですけれども、阿久根に遊びに来て、いいまちだと言うてくださる面でも、女性が住みやすいまちでもあるのかなと、女性が一人で歩いていても、ですねほかにも、飲み屋街とかでも女性が一人で飲みに入っていく姿も見られたり、そういう面で女性が住みやすいまちなのかなというふうに感じております。

大野雅子委員

すいません追加で。定住の空き家のほうで、今、ごめんなさい、もう1回教えてください。今、サポートは何々が、どんなサポートがあるんでしたかね。空き家に対する。空き家を解消するためのサポート。

富永企画推進課長

空き家バンクに登録した物件につきましては、まず、改修の補助がございます。また、移住世帯だったり、子育て世帯であればそこにさらに加算がなされるといった形になります。

また、空き家だったり、空き店舗ですね、そちらのほうで個人だったり法人の方が事業されるといった場合には、改修費用の補助といったものがついてくるといった形になります。こちらのほうについても、市のほうの施策ですね、例えば寺島宗則プロジェクト連動だったりとか、そういったものが認められるのであれば、100万円を上限になるんですけれども、さらに加算していくといった形になってます。もちろん、こちらも移住または事務所移転等があればさらに加算といったところもついておりますので、そういった形でのサポートっていう形ではしているといったところでございます。

大野雅子委員

このサポートは、いろいろたくさん、今、阿久根市も作ってあるんですけど、齊藤さんが活動する中で、あとこんなサービスがあるといいなっていうのが何か感じられます。空き家を埋めるための、来てそこを使っていただくための方策として。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

こういった補助金関係っていうものは、どこのまちも行っているものであつて、多分もしかしたらほかのまちと比べて、阿久根市のこの補助金であればやれるかもしれない、このまちの状況ならやれるかもしれないっていうような形で、補助金とかっていうものを、まちの

手伝いってというのは、もしかしたら減点方式で見ていくものなのかもしれないと思っていて、ではなくて都会とは違う、このまちでやる意味であったりとか、その近くの店舗との連携だったりとかってというのが、田舎ならではのものであって、そういったところが加点方式にできる部分で、多分もしかしたら加点方式の部分ってほかにもいろいろあって、まち独自のものであるとその加点が一気にね上がったとか、そういう加点方式を探していきながら、減点方式にもなってしまう補助金の組合せでほかのまちよりもいい点数をたたき出すっていうようなところが、これからやっていかなければいけないところかなと感じております。

大野雅子委員

すごくいいお考えだなと思って聞いているところです。

私、動画の阿久根っていうのを皆さんが言ってくださってるのを見たんですけど、本当にすてきで、やっぱり人かなと思って見てるところです。

この人たちに会えるっていうのを、本当にいろんなイベントに行ったときに、動画を見てもらって、あの人って、本当によそにないよさっていうのはやっぱり人だと思うんです。

そこでイベントに行ったときにこの人に会えますよ、この人はこんな人ですよっていうのを説明できるのが齊藤さんの強みだと思ってますので、まずブースに来てもらうにはどうしたらいいかっていう、広報の方法ですね。それが、たくさん寄ってきてくだされば齊藤さんに会って、まず、じゃあこの人に会いたいと思って阿久根に来てくれる。それでアクネファン創出事業で体験してもらって、ああいいな、やっぱりここに決めようかなあという、そのところにつながると思うので、すごい丁寧にやっていращやると、いいと思ってます。

とにかく広報、ここに来て、このブースに来てもらうっていう方法、また取り組んでほしい、広報なんかで、もうちょっとこんな、今、個人個人がっていうのを今言ってくださったんですけども、こういうイベントをするときの広報でもうちょっと協力してほしいこととか何かありますか。

齊藤会計年度任用職員（地域おこし協力隊）

やはり、SNS発信だけではどうしても足りない部分っていうものがあるとは感じていて、各年代によって、やはりフェイスブック使っていたり、インスタグラム使っていたり、人が分散しているっていうところと、こういうイベントっていうものってなかなか足を運びにくっていう現状がどうしてもあるので、やはり関係人口っていうところが重要だとは感じていて、友人同士での声のかけ合いであったり、もちろんそれこそ選挙に行きましようみたいな話と近いと思うんですけども、友人同士の声のかけ合いっていうところで、まず阿久根を知ってもらっている過去のアクネファン創出事業の参加者であったりとかに改めてメール送信であったりとかも今しようとしているところではあるんですけども、よりいろんな多くの方に、情報が行き届くようにしていけたらなと思っております。

大野雅子委員

本当にそのとおりだと思ってます。

いろんな、関東阿久根会だとか、そういうところなんかいろいろありますので、そういうところにも出向いて行って、またこういう動画を映して、お友達から遊びに来る方法が、安くて遊びに来て体験する方法がありますので、御紹介くださいっていうのもいいのかなと思ったりしていますので、いろんな方法を模索して、いろんな人の協力を、本当に知ってる人の、つながってる人のほうが1番確実性があると思いますので、そのような方法を模索し

ていってほしいと思っております。

富永企画推進課長

すいません。先ほど地域おこし協力隊の卒業生、15名と申し上げたところでしたが、すいません、13名の間違いでございましたので訂正いたします。よろしくお願いします。

川原慎一委員長

ありがとうございます。

もう御質疑ないと思いますので、所管課は退室をしてください。

〔「ありがとうございます」と呼ぶ者あり〕

〔企画推進課退室〕

〔発言する者あり〕

それでは、この際暫時休憩します。

(休憩 午前10時51分～午前11時3分)

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

先ほど、移住定住促進に関する地域おこし協力隊の取引状況について、所管課から説明を受け、質疑しました。

これを踏まえ、各委員はどのような感想を持たれたか、ここで発表していただき、それぞれの感想、お考えを委員間で共有したいと思います。

それでは、それぞれ御発言をお願いします。

大田基次委員

齊藤さんにおかれては、大変いろいろと工夫されて頑張っていらっしゃるなど。

早急にというふうに変化はないでしょうけれども、彼が言ったとおり、ゆっくりとじっくりやってもらえばいいかなというふうに思います。

それと、お金をかければできる部分がいっぱいあるんでしょうけれども、そのようなところも阿久根市のほうも十分と協力をしながらやっていただけたらというふうに感じました。

大野雅子委員

本当に齊藤さんは一生懸命取り組んでくださってます。

やはり、大田委員も言われたように、一度に急に変わるとするのはとても難しくそれはもう全国的に引っ張り合いしてるわけですから、言われたとおり、補助金で増やしていくという方法は減点方式になるんだろうなというのもよく分かりました。

それでも、ここがあったらいいなというのは少しずつあれしながら、やっぱり、その齊藤さんを通して阿久根を知ってもらい、来てもらって、体験してもらって、阿久根のよさはやっぱり私も人だと思ってる、その人を紹介するっていうのが大事なのかなあと考えています。とてもいい取組の方法ではあると思います。

木下孝行委員

地域おこし協力隊移住定住担当ということで齊藤さんの話を聞いたわけですが、今2名の委員から出たように、なかなかすぐに結果は出すのは難しいという状況は十分理解してあげなきゃいかんのかなと思います。

彼の阿久根に対する思いを伝えたいという気持ちと、告知動画などを作って情報提供も、

今、しているという、そういう状況も見れば、やはり、またその結果が、1年、2年、3年、我々も注視しながら、そこは見ながらいかなければいけないだろうと思っております。

牟田学委員

1番、私が感じたといいますか、黒之浜漁港でしたっけ、女性に移住してきたと。これが大事であってですね、やはり。

齊藤さんが、やはり、もう自分の考え、企画課のかもしれませんが、自分の考えで、今、この阿久根はこうであるという確かなもの持っておいやっから、それを大事にして施策をやっていたらと思います。

竹之内和満委員

齊藤さんの話を聞きまして、いろんなことやってるんだなっていうのを初めて知りました。移住イベントや空き家バンクの活用と。ただ、大野委員も言いましたとおり、各市町村全て同じって言ったらなんですけど、もう競争になっているので、特に、何かもうちょっとこう、引きつけるようなものが欲しいかなあというふうに思います。

例えば、金銭的な補助だけではなくて、やっぱりまちに魅力がないと人は寄ってこないかなあというふうに思いますので、そこら辺りを、もうちょっと、もちろん地域おこし協力隊だけではなくて、議員も含めて、これからやっていくべきかなあというふうに思います。

川原慎一委員長

最後に私も考えを述べさせていただきます。

地域おこし協力隊、正直申しまして機能しているかどうか非常に心配でありましたが、そこは機能しているということで安心をしたところでございます。

20代、30代の女性をどう定住させていくかというところが、この阿久根市、本市にとっても非常に大きな課題でございますから、ここをどういうふうに考えているかというところも、齊藤さんからもお聞きすることもできましたし、それにプラスして、私達議員もいろんなところの施策等も参考にしながらやっていくべきかということ考えたところでございました。

ただいま、各委員から御発言をいただきましたので、これを受けて意見交換したんだよね、今。意見交換を。

〔発言する者あり〕

暫時休憩入ります。

(休憩 午前11時9分～午前11時10分)

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

各委員から御発言をいただきましたので、これを受けて意見交換、討議を行いたいと思います。

討議、意見交換ございませんか。

木下孝行委員

討議というよりも、各、今5人の意見、委員長も含めて6人の意見が出たわけですから、ほぼ皆さん同じような考えだと思うんで、別にここでもう討議は必要ないんじゃないかと私は思います。

だから、大方ほぼ皆さんが同じような意見だと私は認識しましたんで、もう必要ないかと

思います。

大野雅子委員

先ほど、竹之内委員がおっしゃったとおりに、私も活動してることに、今、意見して、確かに、まちにあともう一つ魅力があると、それプラスそれでいいんだなあというのは思って、その魅力というのをやっぱり考えていく必要があるなあと、来るための魅力ですね。

例えば今でしたら、阿久根めぐみこども園が全国的にも注目されています。だから子育て世代の人たちがそういう需要、ここで子育てしたいと思って来てくれる可能性もあります。

今、何かね、短い期間の夏休みだけの体験移住保育とかそういうのも全国的にもやっていますので、そういうのも交流してやっていくのも大事なかな。

ただ、そのあとの小学校、中学校に上がったときの教育のことを考えたら移動してくるのかどうか、そこら辺もまた考えていかないといけないんだろうなというな思っています。

それ、あと、いろんな、子供の教育の習い事とかですね、そういうのはどうしても地域では難しいので、そういうのもどうやったら充実させて、この家だったら子育てをしたいなと。

もう本当に若い女性が、結婚してる人たちは、そういう子育てのことも考えて来るでしょうし、それとあともう一つ、黒之浜の漁協の新しく移住してこられた方、御夫婦で来てらっしゃって、霧島のほうで有名なお店だった人たちです。

ただ、そこを出ないといけなくなったということで、石川さんのつてで、ここにこういういい物件がありますよ、石川さんと齊藤さんは、いろいろ教えてもらいながら動いてますので、やっぱり、そういう人の紹介、そういう、実際のそういう中で、ただ、ただ阿久根がいいなと思って選んできたとかじゃなくて、齊藤くんがこんな物件ありますよ、いい物件ですよっていうので来たんじゃないくて、そこに住んでる人たちを見て、この人たちだったら、自分たちをサポートしてくれるな、地域もいいな。そういう人の本当につながりなんだと思います。

なので、このつなぐ人、どうしても行政の係の人たちはどんどん変わっていきますので、地域協力隊も3年でまだあれてしまうでしょうし、それをつなぐ人、ここにいてサポートする人っていうのは、とても移住してきた人たちには大切ななと私は思ってるんです。

起業した後のサポートはありますかというのも、お話、質問あったときに、行政は特に今のところないですという意見でしたけれども、この間は、起業初めてした人たちが、今地域おこし協力隊の女性の餃子を作ってる濱田さんと新しく去年卒業された中原さん、同じような地域で起業されました。それで、女性が起業するに当たって、どんな不安があるかなっていうトークイベントを2人でされました。それにもちょっと興味がある企業の人たちの女性たちが集まって、どんな状態だったかという実際の話を聞きにつて、そういうイベントもされてましたので、残念ながら私はいけなかったんですけど。

そういう小さな本人たちの動きっていうんですかね。そういうのを聞く機会もどんどんつくっていく。

本当に大きなイベントじゃなくて、難しいんですけど、大きなイベントに、地域の移住定住を呼ぶというのは難しいんですけど、この小さいのの積み重ねと広報となのかなあと私は思って、そのつなぐ人たちを大切にしていけないといけないなと思ってるところです。

大田基次委員

移住定住ということで、空き家バンク、18件あって7件が成約したっちゃうことなんです

けれども、家を素人の方が住みたいという形で家を見たときに、改装に幾らかかるのかってというのは難しいんだと思うんですよ。

だから、せめて水回りだけでも改装したら幾らぐらいかかるのかというようなそういうデータを持っとって見せるっていうのも必要なあというふうに感じたんですよ。

川原慎一委員長

ありがとうございます。

ほかに御意見等ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、討議を終わります。

各委員におかれましては、前回とただいまの討議を踏まえ、今後の調査に臨んでいきたいと思えます。

○ 洋上風力発電について

○ 移住定住促進策について

川原慎一委員長

次に、所管事務調査の洋上風力発電及び移住定住促進策を議題とします。

前回視察調査を行うこととし、洋上風力発電については、長崎県五島市、同県西海市、移住定住促進策については、長崎県五島市、同県東彼杵町、熊本県天草市、鹿児島県大崎町を候補とし、まずは五島市に打診することを基本に調整することで委員長に一任していただいております。

委員長において視察の調整を行いましたので、その結果を報告します。

五島市に対して、洋上風力発電及び移住定住促進策について、本年10月から11月までの日程で視察の打診を行いました。既にほかの団体の視察が入っており、受入れができないとの回答でございました。

令和8年であれば対応できるということでしたので、五島市の視察については、令和8年に行うことができないか、後日、改めて検討したいと思います。

次に、長崎県西海市に洋上風力発電について、同県東彼杵町に移住定住促進策について視察の打診をしたところ、西海市は10月9日、東彼杵町は、10月10日に受入れ可能であることと回答がございました。

したがって、10月9日と10日に長崎県西海市及び東彼杵町を視察することとしたいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、そのように決しました。

視察について、委員派遣の手続を行います。

また、視察先に対し、議長を通じて正式に依頼を行いますが、西海市及び東彼杵町からは、どのような質問を予定されているか事前に通知するように求められています。

よって、質問されたいことについてお伺いします。

まず、西海市の洋上風力発電についてありませんか。

木下孝行委員

西海市の現状は、洋上風力発電建設において、促進地域にもう指定されてる。1番上の段階までもういって、あと公募をして入札に入る、たしかその前後だと私は思うんですけども、そこまでに至った過程の話をしてもらいたいと。

約10年とか8年ぐらい前からスタートしたんだと思うんですけども、そこまでの流れ、経緯を説明してもらいたいと思います。

それと、どんな苦労があったとかいうのもあわせてですね、お願いしたいと思います。

川原慎一委員長

ほかに、西海市の洋上風力についての質問されたいことございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、東彼杵町の移住定住促進策についてございませんか。

木下孝行委員

東彼杵町の移住定住策で、自分の東彼杵町が目玉としてるものを当然紹介してもらおうと思うんですけど。

その紹介と実績、そしてまた、そういったものに対しての今後の課題であったりとか、そういうことをやっぱり紹介してもらえればなと思います。

竹之内和満委員

やはりその数値的なものですね。何人ぐらい移住定住されたとか、それはいつ頃から多くなりだしたのかというその辺りをまず聞きたいですね。

それと、何か工夫があったら、ほかの自治体になような工夫があったらそれもちよっと聞きたいと思います。

川原慎一委員長

暫時休憩入ります。

(休憩 午前11時21分～午前11時22分)

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

ただいま御発言のあった事項については、質問事項として視察先に通知します。

なお、委員の皆様におかれては、今後、西海市と東彼杵町のそれぞれの取組について情報収集を行われることと思います。

情報収集される中で、ただいま御発言いただいた以外に質問事項が出てくると思います。これについては、相手方への手続を行わなければいけないことを踏まえ、8月22日、今週の金曜日までに委員長及び事務局に御連絡いただきたいと思います。

御連絡は、ロゴチャットの総務文教委員会・事務局のグループに投稿する方法でお願いします。

繰り返し申し上げます。

事前の質問事項については、8月22日、今週の金曜日までに、ロゴチャットの総務文教委員会・事務局のグループに投稿する方法でお知らせをください。

それでは、視察の。

〔発言する者あり〕

東彼杵町のウェブサイト、このウェブサイトの中に移住定住支援サイトというものも特別作っておりますので、そういったものも見ただけければ、また質問等も、新たな質問も出ると思いますので、皆さん方お調べいただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

それでは視察の手続を進めますが、事情の変化などによる変更については、委員長に御一

任をお願いしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、そのように決しました。

以上で、本日の委員会を散会します。

(散会 午前11時24分)

総務文教委員会委員長 川 原 慎 一